

参加することに意義がある

～AI時代における人間の存在意義の再定義～

【問いかけ】AIがすべてを最適化する時代、
人間が「参加すること」に、まだ意義はあるのか？

T 作成者：Tomoo Suzuki



背景: 優れなくてもいい時代



将棋: AIに勝てない



スポーツ: 機械の方が
速い



創作: AIが模倣も創造もこなす

→ 「優れること」の価値が薄れる





「異なること」が価値になる

速さより、揺らぎ

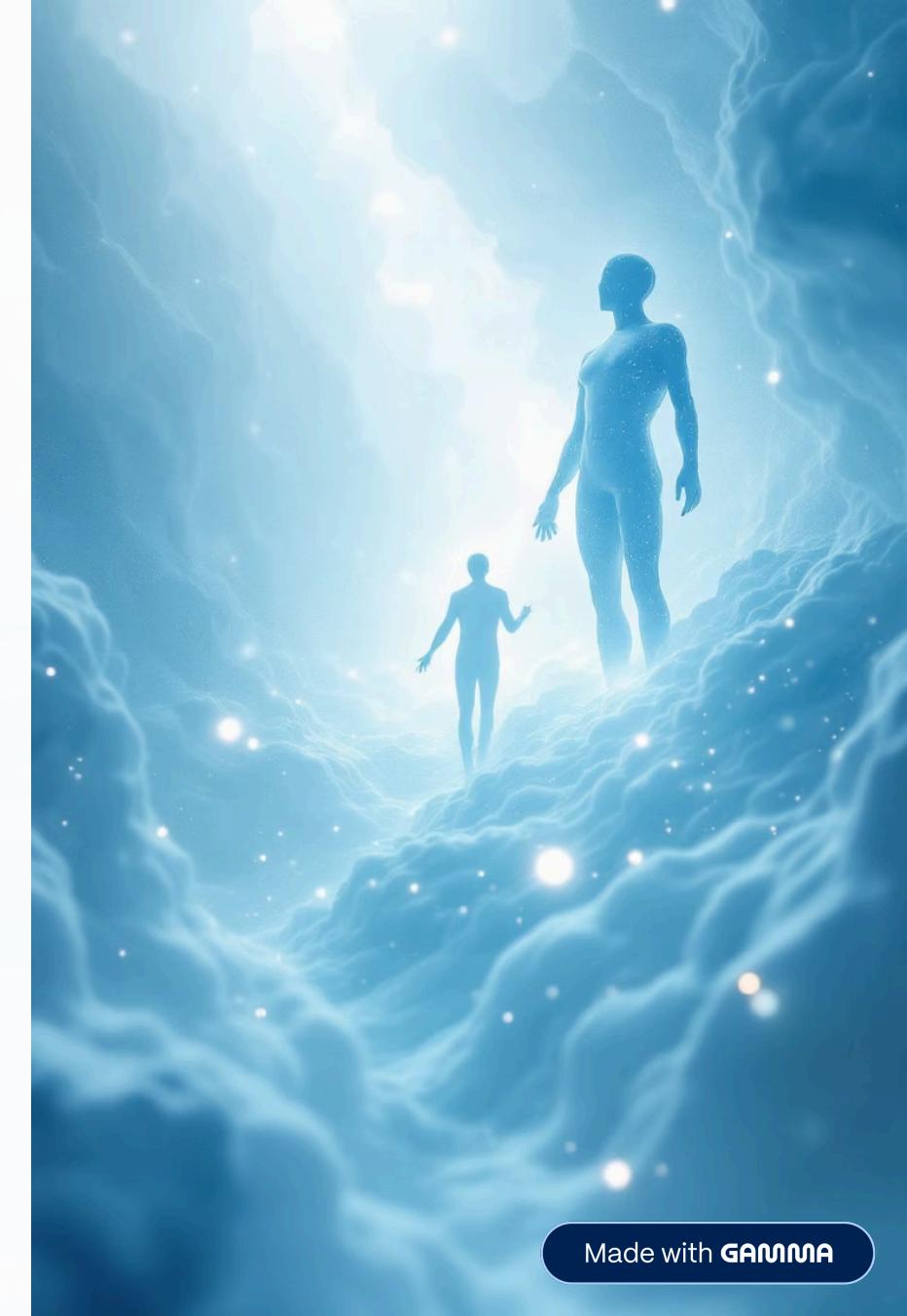
正しさより、物語

最適より、問い合わせの美しさ

→ これからの価値は、「異なること」にこそある

再定義：「参加することに意義がある」とは

- 💡 機械が結果を代行するなら
- 👉 人間は「意味の創造者」として参加する
- 🎽 それが、これからの人間のレース



ただ、そこに立つ理由

1

意味なき時代に、意味を灯す

2

不完全で、不器用で、でも自分のままで

3

「ここに在る」と告げる
ために、人は参加する



人間活動の再定義：比較表

項目	内容
スポーツ	勝敗より、「感情」や「物語」への共感
芸術	再現より、「揺らぎ」や「曖昧さ」
ゲーム	最適解より、「遊び」や「ズラし」
登山	到達より、「なぜ登るか」という問い
仕事	生産性より、「何を大切にして働くか」という姿勢や意味づけ
生き方	成功より、「他と異なるストーリー」



職能の意味①：プロデューサー・ディレクター



プロデューサー – 物語を始める者

「なぜやるのか」という問い合わせを立て、資源や才能を結びつけて理想へと舟を出す。未来を構想し、「何のためにそれを世に問うのか」を問い合わせ続ける存在。意味の旗を立てる役割。

ディレクター – 韻き合いを設計する者

個の閃きを超えて、他者と響き合う見えない設計を積み重ねる。衝突を調和させ、一人では到達できない「美しい完成」への架け橋となる存在。

職能の意味②：デザイナー・エンジニア・アナリスト



デザイナー

– かたちに魔法を宿す者

言葉にできない願いや感情を視覚に変え、空間に命を吹き込む。非最適な違和感で、見る者の心を動かし、余白が対話をつくりだす。「感じられる世界」を、もう一度人間の手で描く。

エンジニア

– 世界を動かす詩人

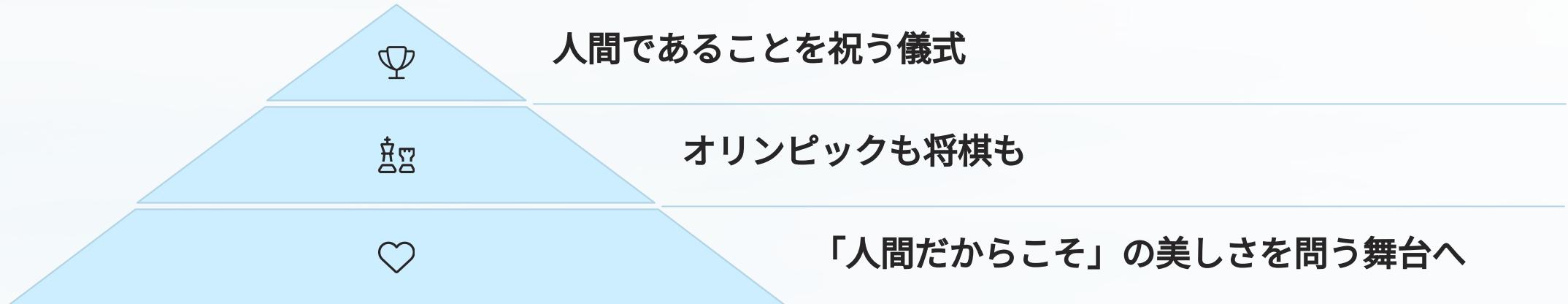
命令文の連なりで世界を動かし、思想をコードに変える創造者。なぜこの構造にするかを問い合わせながら、効率の向こう側に人間らしさを織り込む。そして、世界の「見え方」を変える窓を作る。

アナリスト

– 数字に魂を宿す者

データの海から「今、問うべきこと」を取り出し、可視化して共有。数字の背後にある、人間の感情や選択を読み解き、未来の意思決定へつなぐ架け橋となる。

未来：人間だけのゲーム



再定義の核心とメッセージ

「参加することに意義がある」とは—

意義なき時代に、自らの存在で意義を創る者であれという、人間へのエール。

「優れるな、異なれ。」

意義を創り、世界に残せ。

それが、人間の存在証明。」

